

2018年12月期 第3四半期 決算説明会

井関農機株式会社
取締役 副社長執行役員
富安 司郎

2018年11月15日

目次

1. 2018年12月期 第3四半期業績の概要
2. 国内外市場の動向
3. 2018年12月期 業績予想
4. トピックス



1. 2018年12月期 第3四半期業績の概要

※第3四半期業績のポイント

1～9月の状況(前年同期比)

国内販売会社

農機実売は前年同期減少
収支構造改革は引続き効果を発揮

- 農機実売:(1～9月)97%
- 直系販社の収支構造改革効果:営業利益+2億円

インドネシア 生産子会社 (PT.ISEKIインドネシア)

個社ではアセアン向け減少により収支トントン
事業全体でも前年並み

- インドネシア事業収益改善:営業利益±0億円
(井関単体、国内製造所含む連結ベース)

中国 持分法適用会社 (東風井関)

市場低迷。持分法投資損益悪化

- 持分法投資損益(営業外):経常利益へ影響△11億円

連結業績の概要

※15/12期は決算期変更により9ヶ月決算であったため、12ヶ月に調整し算出している

(単位: 億円、%)

	15/12期	16/12期	17/12期		18/12期		前年 同期比
	※ 3Q 実績	3Q 実績	3Q 実績	比率	3Q 実績	比率	
売上高	1,177	1,184	1,205	100.0	1,192	100.0	△13
(国内)	930	919	943	78.3	939	78.8	△4
(海外)	247	265	262	21.7	253	21.2	△9
営業利益	11	28	46	3.8	36	3.0	△10
経常利益	9	16	54	4.5	28	2.3	△26
親会社株主に帰属する 四半期純利益		7	33	2.8	22	1.8	△11
為替 レート (円)	米ドル	119.9	109.6	112.0	109.4	△2.6	
	ユーロ	135.8	122.9	123.7	131.5	+7.8	

国内売上高

≫ 農機需要が低調な中、作業機・部品・修理収入でカバー

※15/12期は決算期変更により9ヶ月決算であったため、12ヶ月に調整し算出している

(単位:億円)

		15/12期	16/12期	17/12期	18/12期	前年同期比	
		※ 3Q 実績	3Q 実績	3Q 実績	3Q 実績		備考
農機 製品 農機 関連	整地機	227	213	225	211	△14	トラクタ:△12
	栽培機	78	74	66	74	+8	田植機:+6
	収穫調製機	142	143	139	138	△1	
	小計	447	430	430	423	△7	
	作業機	138	149	155	160	+5	
	部品	105	109	112	113	+1	
	修理収入	36	39	41	42	+1	
	小計	279	297	308	315	+7	
	計	726	727	738	738	±0	
	施設工事	46	43	56	50	△6	
その他農業関連	158	149	149	151	+2		
合計	930	919	943	939	△4		

海外売上高

》中国、アセアンでの現地在庫調整により減収

※15/12期は決算期変更により9ヶ月決算であったため、12ヶ月に調整し算出している

(単位:億円)

	15/12期	16/12期	17/12期	18/12期	前年同期比	
	※ 3Q 実績	3Q 実績	3Q 実績	3Q 実績		備考
北米	96	94	60	83	+23	取引条件変更一巡 トラクタ: +21
欧州	93	75	85	84	△1	
中国	10	24	30	10	△20	現地在庫調整 田植機: △16
アセアン	10	25	33	25	△8	コンバイン: △10
その他	14	16	21	14	△7	
製品計	223	234	229	216	△13	
部品その他	24	31	33	37	+4	
連結売上高合計	247	265	262	253	△9	
中国事業を含む グローバル海外売上高合計	312	309	293	291	△2	
グローバル海外売上高比率	25.1%	25.2%	23.7%	23.6%	△0.1%	

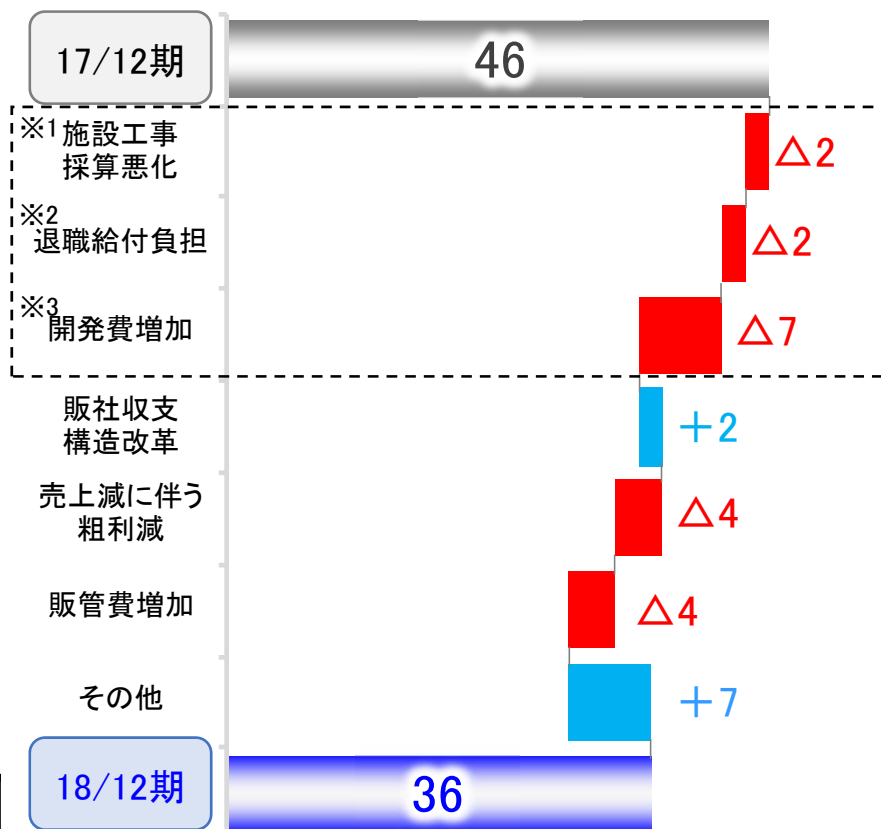
営業利益

➤ 減収に伴う粗利益の減少に加え、施設不採算工事や子会社合併による退職給付計算原則適用による一時的負担、開発費の増加等により減益

(単位: 億円、%)

	17/12期 3Q 実績	18/12期 3Q 実績	前年 同期比
売上高	1,205	1,192	△13
売上総利益	360	354	△6
粗利率	29.9%	29.7%	△0.2%
販管費	314	318	+4
人件費	184	187	+3
その他経費	130	131	+1
営業利益	46	36	△10

【前年同期比増減内訳(億円)】



【為替影響(億円)】

売上	原価	販管費	営業利益
0	△1	0	△1

※1: 不採算施設工事による粗利率悪化

※2: 子会社合併に伴う退職給付計算原則適用による一時的負担

※3: 国内排ガス4次規制対応商品開発費用等の増加

経常利益、四半期純利益

》市場低迷を受けた中国持分法適用会社の収益悪化により
経常損益悪化

(単位:億円)

	17/12期 3Q 実績	18/12期 3Q 実績	前年 同期比
営業利益	46	36	△10
金融収支	△5	△6	△1
その他営業外損益	13	△2	△15
経常利益	54	28	△26
特別利益	1	1	±0
特別損失	△6	△1	+5
税前利益	49	28	△21
税、税調整額	△16	△6	+10
親会社株主に帰属する 四半期純利益	33	22	△11

営業外損益増減内訳(前年同期比)

為替差損益	△1億円
持分法投資損益	△11億円
その他 ※1	△3億円

※1:前期にあった耐震補助金収入の減少

【持分法投資損益増減】 (億円)

16/12期	17/12期	増減
+4	△7	△11

・連結納税制度適用に伴う税金費用減

バランスシート(連結)

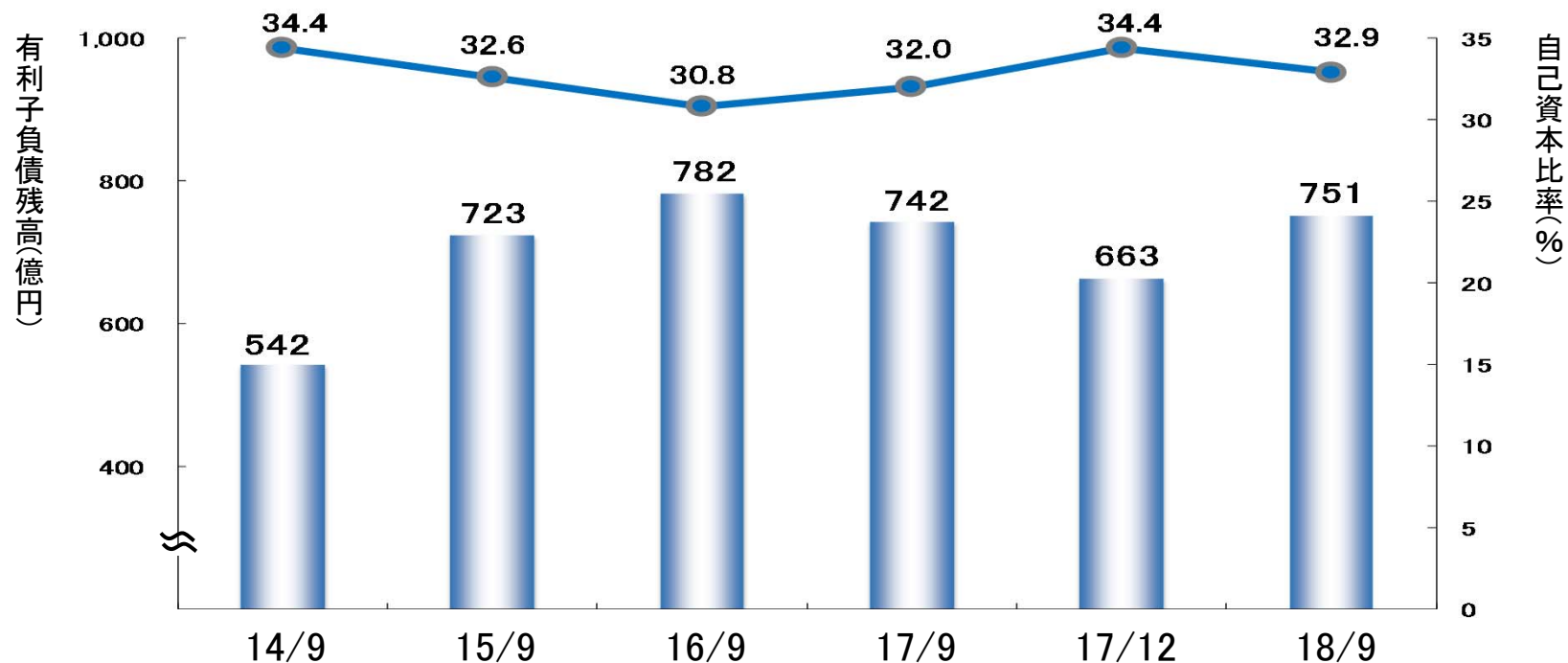
》仕入債務は生産量の減少に伴い減少

(単位:億円)

	17/9月末	18/9月末	増減		17/9月末	18/9月末	増減
現 預 金	85	78	△ 7	仕 入 債 務	464	428	△ 36
売 上 債 権	368	360	△ 8	有 利 子 負 債	742	751	+ 9
棚 卸 資 産	553	545	△ 8	(内 借 入 金)	(671)	(688)	(+17)
(内 製 品 ・ 商 品)	(476)	(466)	(△10)	そ の 他 負 債	238	222	△ 16
そ の 他 流 動 資 産	48	44	△ 4	負 債 計	1,444	1,401	△ 43
流 動 資 産 計	1,054	1,027	△ 27	純 資 産	705	714	+ 9
有 形 ・ 無 形 固 定 資 産	962	979	+ 17	(利 益 剰 余 金)	(170)	(181)	(+11)
投 資 そ の 他 資 産	133	109	△ 24	(有 価 証 券 評 価 差 額 金)	(15)	(11)	(△ 4)
(投 資 有 価 証 券)	(66)	(60)	(△ 6)	(為 替 換 算 調 整 勘 定)	(10)	(9)	(△ 1)
固 定 資 産 計	1,095	1,088	△ 7	負 債 ・ 純 資 産 計	2,149	2,115	△ 34
資 産 合 計	2,149	2,115	△ 34				

自己資本比率・有利子負債

≫ 有利子負債残高、D/Eレシオは前年同期並み



借入金・社債	462	631	697	671	596	688
リース債務	80	92	85	71	67	63
有利子負債 計	542	723	782	742	663	751

D/Eレシオ	0.79倍	1.05倍	1.19倍	1.05倍	0.94倍	1.05倍
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

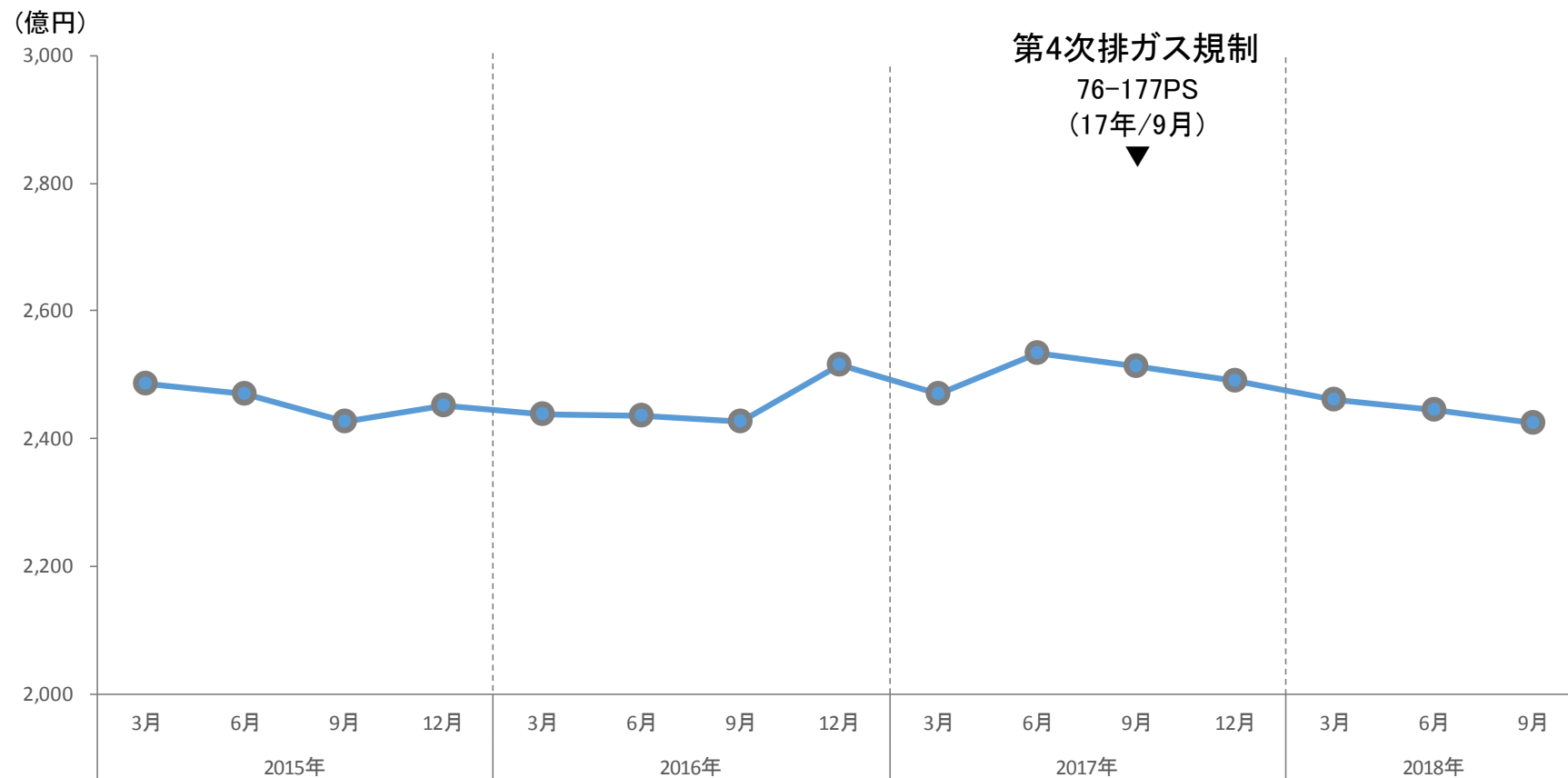
※D/Eレシオ=有利子負債/純資産 ※リース債務を含む

2. 国内外市場の動向

国内農機市場の動向

≫ 需要は弱含み横ばいで推移

農機需要〔業界出荷〕(主要9機種・移動年計)



※出所:【農機需要】日農工出荷統計

国内農機出荷と当社シェア状況

≫ 当社9機種実売(移動年計)は前年並み

主要9機種 前年伸長率(金額、移動年計) ※当社推計 (単位:%)

		15/9	16/9	17/9	18/9
業界	(出荷金額)	76%	100%	104%	96%
当社	(実売金額)	89%	98%	96%	98%

国内販売会社 農機製品実売状況(前年伸長率)

(単位:%)

	1-3月	4~6月	7~9月	1-9月	足許10月
実売金額	96%	101%	94%	97%	104%

※実売は、建値で換算した販売会社12社の農機製品販売額。

未来投資戦略2018

—「Society5.0」「データ駆動型社会」への変革—

農業分野：農林水産業全体にわたる改革とスマート農林水産業の実現

◆ KPIの主な進捗状況

2025年 担い手農家のほぼすべてがデータを活用した農業を実践

2023年 全農地面積の8割が担い手によって利用⇒2017年末55.2%

2023年 担い手のコメ生産コストを2011年比4割削減⇒2016年32%

2019年 農林水産物・食品の輸出額1兆円を達成⇒2017年8,071億円

※出所：未来投資戦略2018 より抜粋

国内市場の動向

- ▶ スマート農林水産業実現に向け力強く推進
- ⇒ スマート農機加速化実証プロジェクトを概算要求(50億円)

スマート農機加速化実証プロジェクト概要

＜対策のポイント＞

「スマート農業」の社会実装を図るため、先端技術を生産から出荷まで体系的に組み立て、一貫した形で実証研究を行い、最適な技術体系を確立する取組みを支援

＜政策目標＞

農業の担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践(2025年まで)

＜事業イメージ＞大規模水田作でのスマート実証農場の例



※出所:農林水産省 平成31年度農林水産予算概算要求の概要を当社向けに改編

国内 当社の取組み

》 ISEKI ICT SOLUTION

最先端技術を融合させ、農業課題をソリューション



当社のスマート農業のラインアップを
わかりやく提案

ISEKI SENSING TECHNOLOGY

- センサー等を活用し
作物の生育状況をセンシング
(高精度精密農業)

ISEKI DREAM PILOT(自動操舵)

- 位置情報を基に
作業操舵をアシスト
(労働力低減、高精度作業)

ISEKI AGRI MANAGEMENT SYSTEM

- 各種データを連携させ見える化し
一元管理
(高精度な経営管理、営農管理)

情報を見る形で蓄積し、農業の生産性向上を支援

国内 当社の取組み

≫ 耕うん～乾燥調製まで《データを駆使した一貫体系》を提案
 当社のオープンイノベーションでの取組みがプロジェクトと合致

日本農業を応援



ISEKIスマート農機水田一貫体系

耕起・整地

移植・直播

水田管理作業

収穫

収穫以降

CT SOLUTION
ISEKI SENSING TECHNOLOGY
FEEL THE AGRI

高精度
精密農業
1等米
品質向上

トラクタ 走行アシスト

他社: ガイダンスシステム

ロボットトラクタ
(開発中)

★有人監視型
2018年12月投入



可変施肥田植機



ロボット田植機
(開発中)

直進アシスト田植機



車速連動追肥乗用管理機

他社: 水温センサーデータ
ドローン・人工衛星画像



スマート追肥
(開発中)

乗用管理機 走行アシスト

収量コンバイン



ロボットコンバイン
(開発中)

稼働状況メール配信



スマート収量管理
(開発中)

CT SOLUTION
ISEKI DREAM PILOT
FEEL THE AGRI

労働力
低減
・
高精度
作業

CT SOLUTION
ISEKI AGRIMANAGEMENT SYSTEM
FEEL THE AGRI

営農
管理

営農管理システム



SMART FARMERS SUPPORT

他社センシングデータ



アグリノート
agri-note

各メーカーのデータをアグリノートへ

<(一例) 収量コンバインでの作業データ>

作業記録			
作業者	吉崎	作業時間	14:00 ~ 15:30
機械	HJ6123 収量コンバイン	計測	収穫時

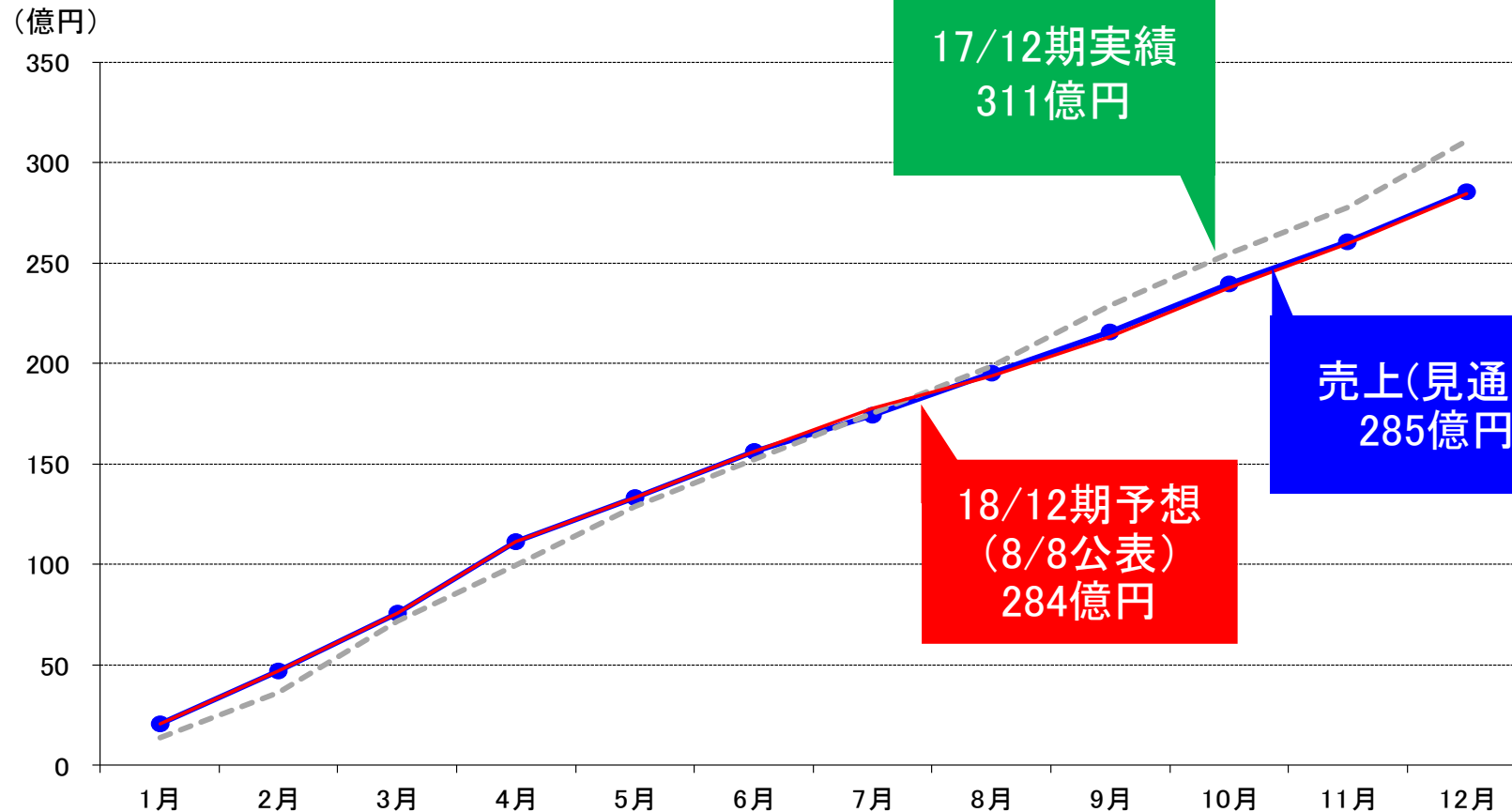


収穫実績	
収穫重量	2675kg (590kg/10a)
乾燥重量	2499kg (540kg/10a)
水分平均	21.7%

ロボットトラクタ (有人監視型) 2018年12月市場投入

海外製品売上の直近状況

» 北米、アセアン、中国での現地在庫調整により前年を下回る



※製品ベース。「部品 その他」は含まず

海外市場の動向(北米)

➤ AGCO社実売は市場を上回って推移
商品力の強化により今後更なる売上拡大を図る

1. 市場の動向

(単位:千台、%)

区分 (PTO馬力)	コンパクト (40HP以下)		ユーティリティ (40~100HP)		大型クラス (100HP以上)	
	米国	カナダ	米国	カナダ	米国	カナダ
2017年1-9月	112	10	122	44	4	48
2018年1-9月	122	11	133	44	4	48
増減率	110%	104%	109%	101%	100%	101%

(出所:AEM統計)

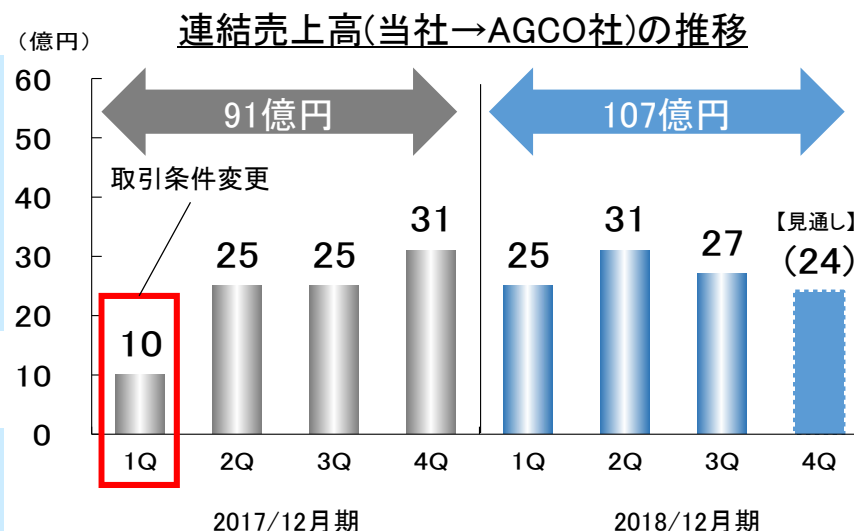
2. AGCO社(OEM先)の状況

実売台数(18/1-9月)

- コンパクト : 前年同期比 118%
- ユーティリティ : 前年同期比 116%

3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(18/1-12月): 前年同期比 129%



海外市場の動向（欧州）

▶ 商品力の強化や販売推進により、当社売上は前年を上回る見込み

1. 市場の動向

景観整備市場は、低温による春シーズンのスタート遅れ、また夏季の高温少雨により芝の生育不良。グリーンビジネスの需要に影響を及ぼしている。

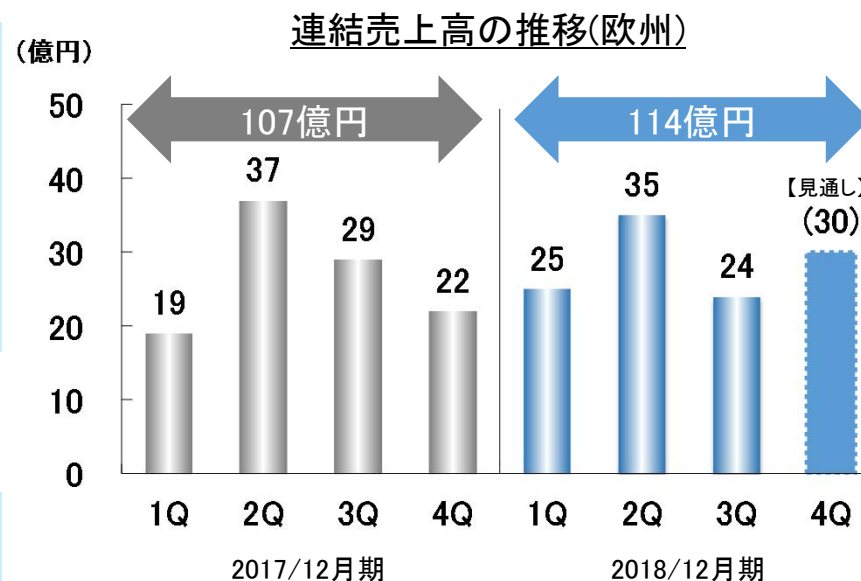
2. 現地の実売状況

▶ 実売(18/1-9月)

- ・現地販売代理店 : 前年同期比 96%
(台数ベース)
- ・ISEKIフランス : 前年同期比 104%
(連結子会社、金額ベース)

3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(18/1-12月) : 前年同期比 128%



海外市場の動向(アセアン:タイ)

》市場は販売競争激化

1. 市場の動向

農作物価格は安定傾向にあるが、家計債務の高止まりなどにより農村経済は停滞し、購買マインドは伸び悩んでいる。

2. 現地販売会社[IST Farm Machinery]の状況 【三菱商事80%、当社20%出資】

現地実売台数(アセアン戦略トラクタ、1-9月) : 前年同期比 82%

3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(18/1-12月) : 前年同期比 71%



海外市場の動向（アセアン：その他）

➤ インドネシア入札は稲作からコーンなどの畑作向けへ一部シフトも想定。畑作に適した機種投入により受注獲得を図る

■ インドネシア

➤ 市場動向

2015年から続く政府主導の機械化推進(政府入札)

➤ 当社状況

対象機種は年度により変化。トラクタ、歩行田植機は前年を上回る。

今後のマーケット拡大を想定し、ISEKIタイランドをベースとした補修部品供給体制構築に着手

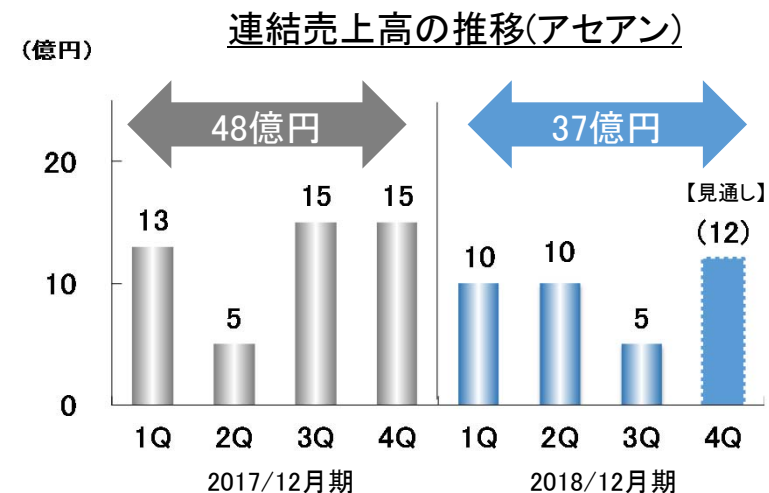
■ その他(ミャンマー等)

➤ 市場動向

機械化進展により需要が見込める。

➤ 当社状況

ミャンマーにおいてコンバイン販売着実に伸長。今後、カンボジアやラオス等への地域展開も含め、IST Farm Machinery、AGCO社と共に事業領域の拡大を図る。



PT.井関インドネシア(生産子会社)



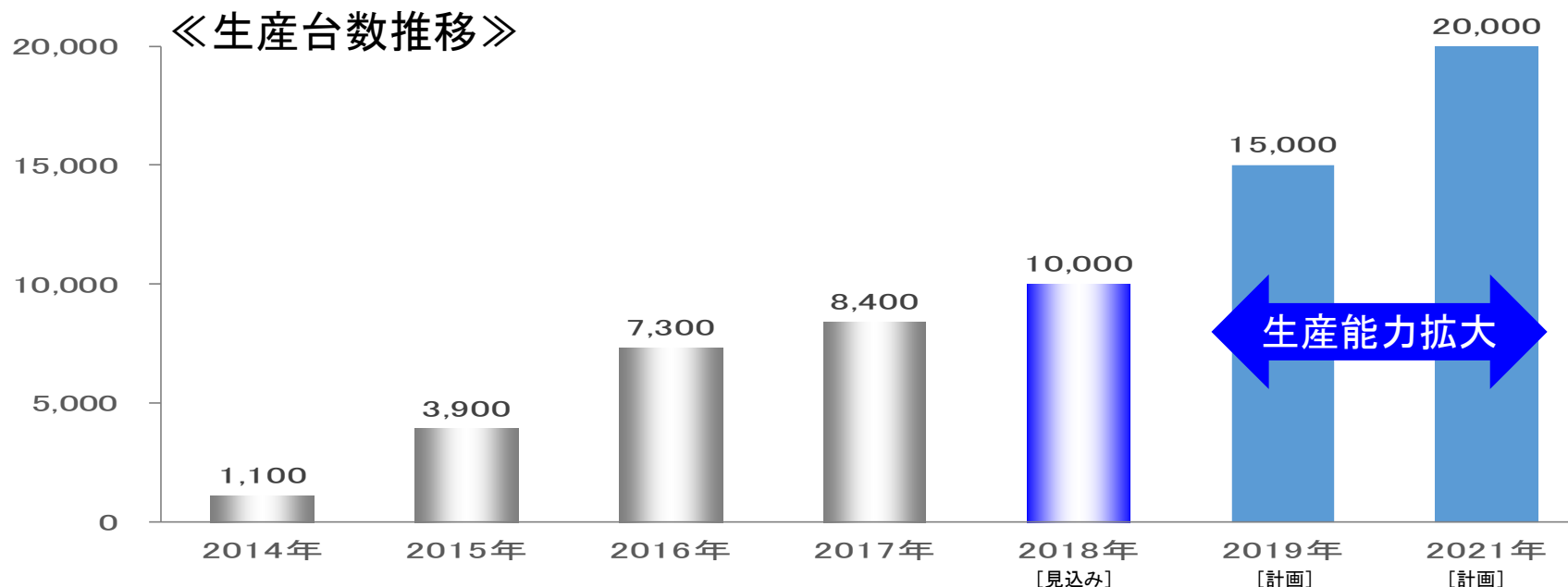
≫増産へ向け体制整備

海外で稼ぐためのベース基地として、収益体質強化を一層図る

※2018年は井関単体との単価改訂を織り込んでいる

(単位:台、億円)

	2014年 実績	2015年 実績	2016年 実績	2017年 実績	2018年	
					通期 見込み	1-9月
生産台数	1,100	3,900	7,300	8,400	10,000	7,100
営業利益	△3	△4	△3	3	1	0



海外市場の動向(中国:市場動向)

» 中国政府の補助金発表遅れ(例年より2ヶ月遅れ)や
米麦価格低迷などの影響により低調

1. 中央政府補助金

(億元)

2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
215	217.5	238	238	237	186	186

2. 2018年1~9月農機業界の動向(前年同期比、台数)

(単位:%)

	※業界	東風井関
田植機(歩行、乗用)	△ 33%	△ 23%
コンバイン(汎用、自脱)	△ 26%	+ 62%
トラクタ(70-110hp)	△ 23%	+ 65%

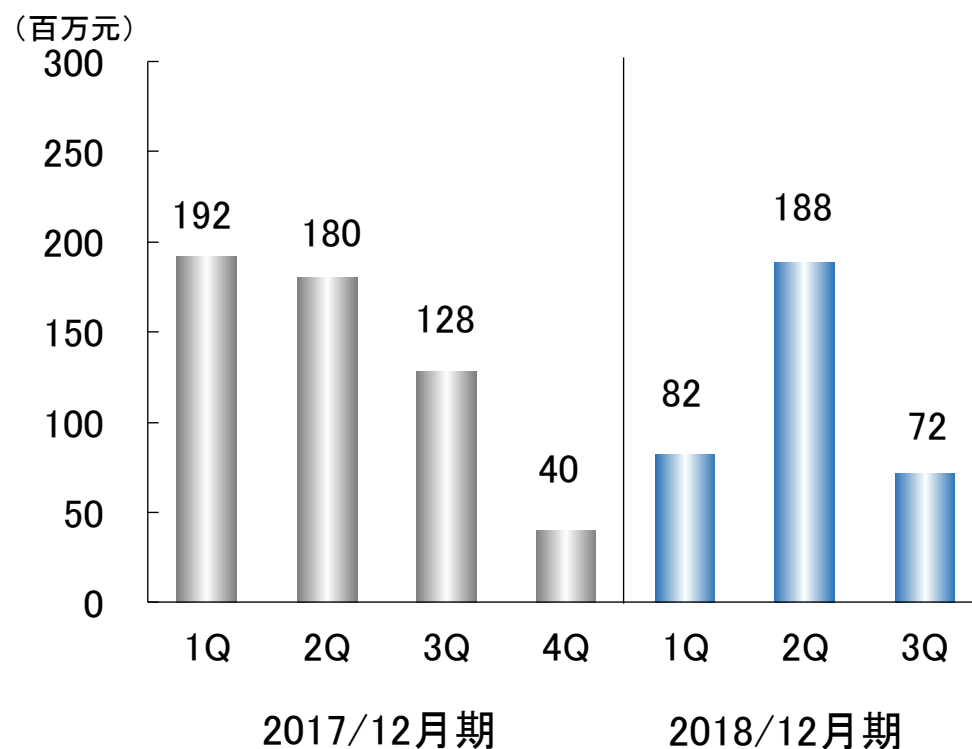
※(出所)中国農業機械工業協会

海外市場の動向(中国:東風井関)

➤ 市場低迷の中で販売競争激化

1. 東風井関の状況

■ 東風井関売上高推移(現地通貨ベース)



■ 東風井関の販売状況(18/1-9月)

- 中国国内販売は、田植機が減少
- アセアン向け輸出は、インドネシア向けコンバインが減少

東風井関の体制強化

東風グループと一体となり、
商品開発・製造・販売・アフターサービス
に至る体制を強化



人事刷新

3. 2018年12月期 業績予想

2018年12月期 連結業績・配当予想

≫ 営業利益: 売上減少による粗利益減少
 経常利益: 持分法投資損益悪化

< 連結業績予想 >

(単位: 億円)

	17/12期 実績	18/12期 前回予想	18/12期 今回予想	増減	
				前期比	前回比
売上高	1,584	1,580	1,550	△34	△30
(国内)	1,231	1,252	1,219	△12	△33
(海外)	353	328	331	△22	+ 3
営業利益	40	45	32	△ 8	△13
経常利益	42	43	26	△16	△17
親会社株主に帰属する 当期純利益	28	32	14	△14	△18

・前回予想: 2018年8月8日公表予想 今回予想: 2018年11月12日公表予想 ・想定為替レートは対米ドル110円(継続)、対ユーロ130円(継続)

< 配当予想 >

	17/12期 実績	18/12期予想 (2月13日公表)
期末配当(円)	30	30

国内売上高予想

》農機製品及び施設工事等の売上減少を織り込み

・前回予想:2018年8月8日公表予想 今回予想:2018年11月12日公表予想

(単位:億円)

		17/12期 実績	18/12期 前回予想	18/12期 今回予想	増減		
					前期比	前回比	
農機 関連	農機 製品	整地機	282	284	264	△18	△20
		栽培機	85	91	92	+7	+1
		収穫調製機	204	205	203	△1	△2
		小計	571	580	559	△12	△21
	農機 関連	作業機	197	212	205	+8	△7
		部品	147	149	149	+2	±0
		修理収入	54	55	56	+2	+1
		小計	398	416	410	+12	△6
	計		969	996	969	±0	△27
	施設工事		66	62	54	△12	△8
その他農業関連		196	194	196	±0	+2	
合計		1,231	1,252	1,219	△12	△33	

海外売上高予想

≫ ほぼ前回予想通り

・前回予想: 2018年8月8日公表予想 今回予想: 2018年11月12日公表予想

(単位: 億円)

	17/12期 実績	18/12期 前回予想	18/12期 今回予想	増減	
				前期比	前回比
北米	91	107	107	+16	±0
欧州	107	111	114	+7	+3
中国	38	11	10	△28	△1
アセアン	48	39	37	△11	△2
その他	27	16	17	△10	+1
製品計	311	284	285	△26	+1
部品その他	42	44	46	+4	+2
連結売上高合計	353	328	331	△22	+3

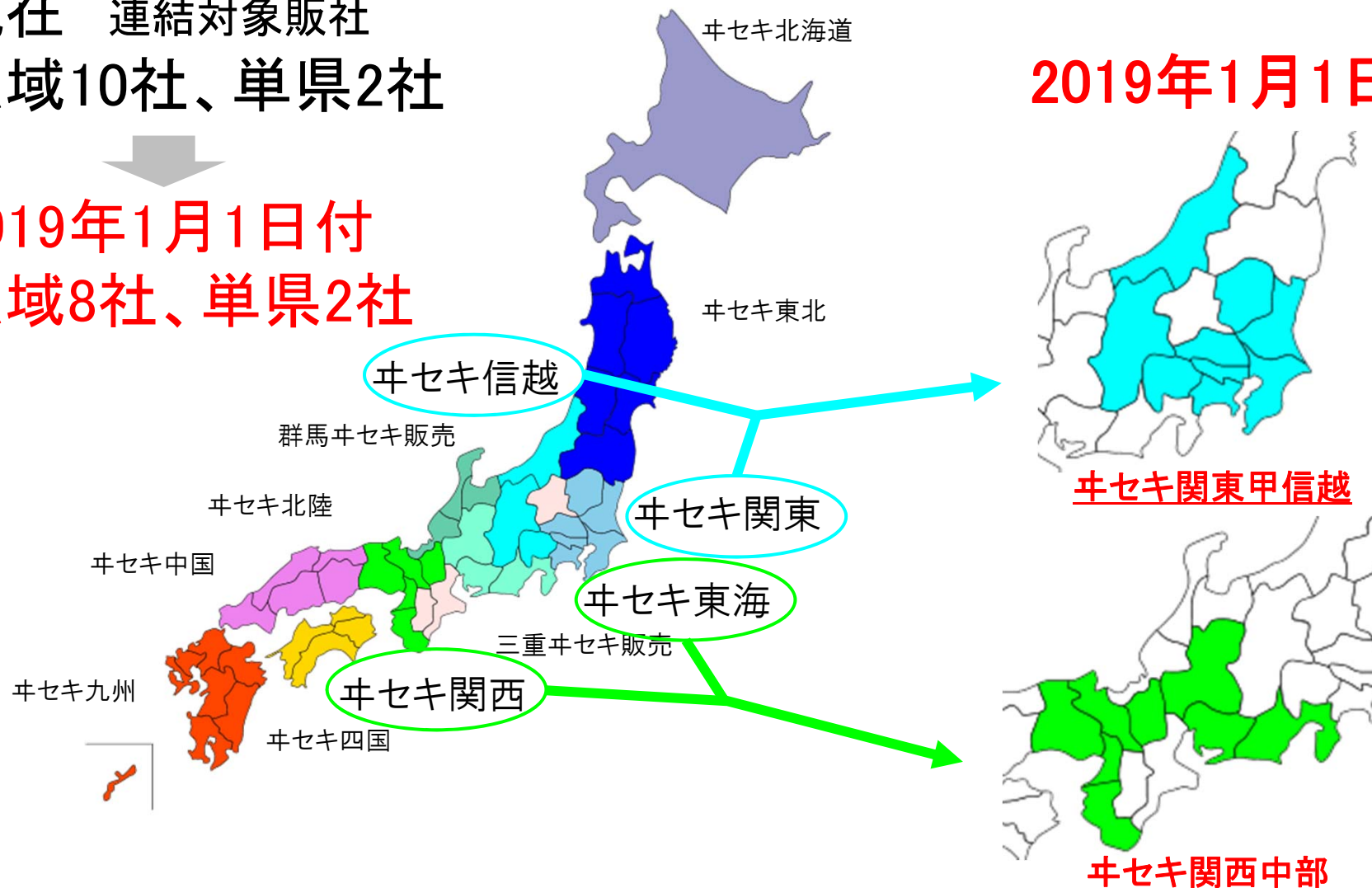
4. トピックス

国内農業への対応強化

≫販売・サービス体制の広域化<ブロック戦略>

現在 連結対象販社
広域10社、単県2社

2019年1月1日付
広域8社、単県2社



国内農業への対応強化

≫ 販売・サービス体制の広域化<ブロック戦略>

国内農業構造

- ≫ 大規模化
- ≫ 作付転換
- ≫ 農業人口減少、
高齢化

今後更に
≫ 構造変化加速

合併により両社強みの展開を加速

- ≫ 市場状況変化、顧客ニーズへの対応
力を高めた販売サービス体制構築
- ≫ 経営効率化、経営資源の有効活用

変化への対応強化
収益体質強化

働き方改革

業務効率化
- 生産性向上 -

業務効率化プロジェクト設置

業務効率化

経営の基本方針のひとつとして
全社一体となって取組み

ムリ・ムダ・ムラの徹底的排除
－ 更なるITの活用

収益改善

将来の見通しに関する記述についての注意

- ・本資料は、情報提供を目的として作成しており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、潜在的风险や不確実性が含まれており、経済情勢や市場動向の変化等により実際の結果と必ずしも一致するものではありません。
- ・ご利用に際しては、ご自身の判断でお願い致します。

本資料に掲載している業績予想や目標数値に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。



安心を、未来へつなぐ食料自給率1%アップ運動
FOOD ACTION NIPPON

井関グループは FOOD ACTION NIPPON の推進パートナーです。



未来の
ために、
いま選ぼう。

井関グループは、
環境省による地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を
促す国民運動である【COOL CHOICE】の取組みに賛同しています。
「賢い選択」の提案として「エコ商品」など
環境に配慮した商品の開発普及を推進しています。